

建設長崎大運動会開催のお知らせ

とき 平成29年10月22日(日)

午前10時開会

ところ 琴海中部運動公園

(長崎市長浦町) ※雨天の場合は中止

建設長崎

September No.627

2017年9月15日

1部20円 組合員の購読料は組合費に含まれます

印刷●株昭和堂 TEL 095-821-1234

発行●長崎県建設産業労働組合 〒852-8021 長崎市城山町17番58号 TEL 095-862-7121 FAX 095-862-5281 http://www.kensetunagasaki.org/ 発行責任者●田上一郎 編集人●若杉孝雄

諫早市要請

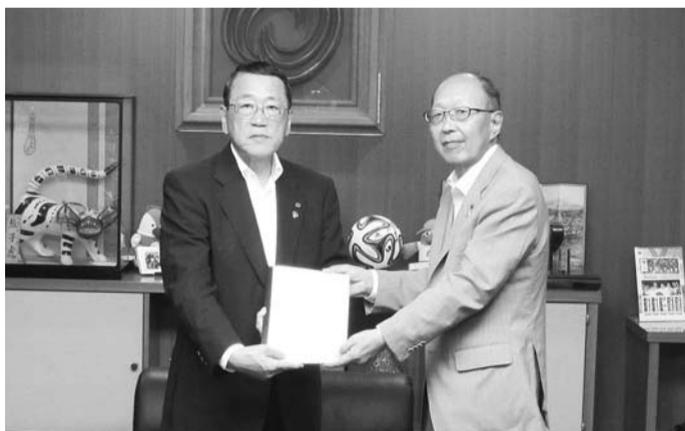
若い世代の入職・仕事確保のため リフォーム助成制度の継続と拡充を

八月二十三日(水)十一時十分から、諫早市役所市長応接室にて、諫早市長に対し要請を行いました。

市側からは宮本市長他五名、組合・協会からは船津委員長、北村会長他十三名が出席。

始めに北村会長から宮本市長へ要請書を手渡し、要請書の趣旨を説明。宮本市長はあいさつで「これまでもできるだけ要望に沿うような政策を展開している。県では住宅リフォーム助成制度が平成二十七年で廃

止となり、今は三世代住宅を対象に助成が行われているが、諫早市では独自に住宅リフォームを継続している。また土地利用に関しての規制が、市・県それぞれにあり、その情報を一元的にみられる制度を八月二十八日から開始する。この制度を大いに利用していただき、数多く戸建て住宅を建てていただきたい。」と述べられました。



▲諫早市要請 宮本市長(左)に要請書を手渡す北村会長



▲佐世保市要請 佐世保支部協会による要請

課長から回答があり、工事発注に関する要望について

意見交換では、建築事業が減少し厳しい状況の中、建築に関する工事の受注機会を増やしてほしいとの要望に対し、市としては耐震化工事も一定のめどが立ち建設から改修・維持へとシフトしたため、塗装・防水工事等の専門工事が増えて

仕事確保・処遇改善に向けて要請

は「業者選定は地元業者の育成、支援、市内の経済活性化のために、地元業者を優先的に選定・指名し、分離発注についてもできる限り努めている。また年間を通しての平準化発注にも努めている。」

設計労務単価の引き上げ

平均年齢が五十歳を超えている。若年入職者もなかなか入らず、ますます働き手がいなくなる。民間活力のためにもリフォーム制度の継続をお願いしたい」と重ねて要望し、終了しました。

佐世保市要請

受注機会の増と 若年技能者への施策を

八月三十一日(木)、午前十一時から佐世保市役所において山口副市長他七名の部

課長に対し、組合・協会からは田上専務理事他八名と山下市議他三名の市議団で

要請を行いました。双方のあいさつ後、要望書を渡し、まず工事発注に関する要望は、「機会均等並びに地元発注を最優先に行っているが四月から六月の端境期については今後も検討する」との回答でした。次に住宅リフォーム制度については「空き家対策での補助や三世代同居・近居促進事業を行っているのだから活用して頂きたい」との回答がありました。



▲県央振興局要請 田上専務理事より要請書を手渡す北村会長

最後に田上専務理事より住宅リフォームは若年技能者にとって、技術の継承につながる重要な仕事と捉え、各種助成制度の創設をお願いしますと再度要望し、約一時間の要請行動を終了しました。

その後、小規模工事における積算単価や空き家対策について要望を行い、最後に船津委員長がリフォーム助成制度について重ねて要望し終了しました。

県央振興局要請

小規模工事の積算単価 空家対策について重ねて要望

八月二十三日(水)午前十時から、県央振興局長に要請他七名、組合・協会から船津委員長、北村会長二十

名が出席。始めに局長室において、北村会長から嶋田局長へ要請書を手渡し、その後、建設部長から要請内容について回答を頂きました。工事発注については、「分離発注はそれぞれの専門性を配慮し発注しているが、分割となるとコスト面がありな

年間拡大目標400名に設定 組織純増で組織強化・前期拡大成功へ

前期拡大行動期間(9月~11月)

仕事とくらしを守るために 組織を大きくしましょう!

「数は力」仲間の数を増やして影響力を高め要求実現につなげましょう。

多くの仲間の皆さんの 協力(紹介)が必要です!

組合員さん一人ひとりが持つ日常のつながりを拡大に活かしてください。

組合が大きくなれば、魅力・ メリットも充実・発展へ!

長建国保や共済など組合の事業は、数が増えれば充実・発展につながります。

私たちを取り巻く情勢は大変厳しいものがあります。だからこそ、建設技能者・職人が組合に結集し、切実な要求の実現や制度改善に向かって進んでいくことが大切です。

■前期拡大目標■

支部名	目標(人)
中 央	12
大 浦	10
市 南	11
東 長 崎	13
浦 上 西	16
浦 上 東	10
西 彼	16
諫 早	18
大 村	12
島 原	15
佐世保中央	15
佐世保東	18
佐世保北	12
北 松	11
平 戸	9
合 計	200



建設長崎中央支部大会

中央支部

開催日 八月二十三日(水)
 参加者 五十二名
 支部長 本多 常秋
 副支部長 馬渡 鉄洋
 〃 山口 龍志
 〃 樋口 正人
 〃 石橋 廣喜
 書記長 井関 一幸

大浦支部

開催日 九月十二日(火)
 参加者 三十七名
 支部長 北村 五男
 副支部長 平山 正則
 〃 島田 時治
 〃 古里 一紀
 〃 宮副 辰則
 書記長 井関 一幸



建設長崎大浦支部大会

市南支部

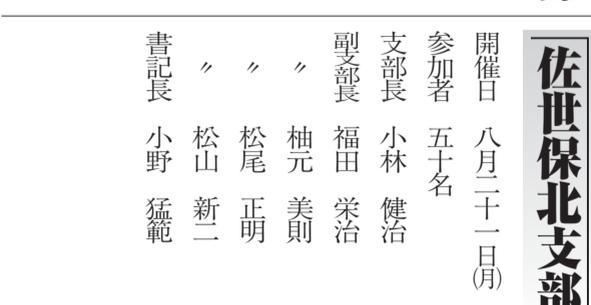
開催日 八月二十八日(月)
 参加者 五十四名
 支部長 小宮 清治
 副支部長 山下 洋二
 〃 小泉 雄義
 〃 中島 善明
 〃 山崎 昌晴
 〃 一ノ瀬 崇
 書記長 古井 宏樹



建設長崎東支部大会

東長崎支部

開催日 九月四日(月)
 参加者 四十八名
 支部長 里 澄宏
 副支部長 山村 篤司
 〃 岩永 和範
 〃 尾上 正範
 〃 本村 美喜男
 書記長 若杉 孝雄



建設長崎東支部大会

浦上東支部

開催日 八月三十一日(木)
 参加者 四十五名
 支部長 田崎 順一
 副支部長 野口 耕平
 〃 森 政一
 〃 田川 和博
 〃 松田 隆人
 書記長 江頭 孝一



建設長崎西支部大会

西彼支部

開催日 九月十一日(月)
 参加者 六十七名
 支部長 岩崎喜三郎
 副支部長 井手 保
 〃 山中 茂
 〃 中尾 豊
 〃 尾崎 光生
 書記長 森 一公

建設長崎島原支部大会

大村支部

開催日 九月十三日(水)
 参加者 六十五名
 支部長 中尾 政男
 副支部長 一瀬 純男
 〃 川田 洋一
 〃 緒方 末広
 〃 津上 章司
 〃 金水 誠
 〃 松野 隆志
 担当 山本祐一郎

長崎県建設産業労働組合 佐世保中央支部

佐世保中央支部

開催日 八月二十二日(火)
 参加者 六十七名
 支部長 塚本 芳美
 副支部長 宮野 喜吉
 〃 川元 俊彦
 〃 末吉 重一
 〃 本田 英樹
 〃 大島 吉博
 書記長 測上 武司

建設長崎島原支部大会

佐世保北支部

開催日 八月二十一日(月)
 参加者 五十名
 支部長 小林 健治
 副支部長 福田 栄治
 〃 柚元 美則
 〃 松尾 正明
 〃 松山 新一
 書記長 小野 猛範

建設長崎島原支部大会

佐世保東支部

開催日 八月二十五日(金)
 参加者 六十八名
 支部長 茅原喜志男
 副支部長 長島 則行
 〃 小谷 守
 〃 迎 稔
 〃 大庭 真八
 〃 坂口 龍夫
 担当 香月 徳仁

建設長崎島原支部大会

平戸支部

開催日 八月二十四日(木)
 参加者 五十六名
 支部長 岡田 眞
 副支部長 原田 仁志
 〃 大石 義孝
 〃 大浦 広巳
 担当 西田 光孝

建設長崎島原支部大会

北松支部

開催日 八月二十九日(火)
 参加者 五十五名
 支部長 須藤 輝久
 副支部長 近藤 力也
 〃 坂中 善男
 〃 萩原 正清
 〃 田中 祐二
 担当 西田 光孝

建設長崎島原支部大会

各支部大会開催

延べ八一六名が参加!

建設長崎第七十二回定期大会を受け、八月二十一日開催の佐世保北支部大会を皮切りに、各支部大会が開催されました。

平成二十八年度の経過・決算報告、二十九年度の方針・予算の提案、新役員の決定が行われ、新体制がスタートしました。

浦上西支部

開催日 九月一日(金)
 参加者 六十五名
 支部長 村岡 広明
 副支部長 佐藤 昭彦
 〃 平出 壽夫
 〃 木下 広次
 〃 山崎 司
 〃 山形 信
 〃 下川 孝貴
 書記長 松園 俊輔

島原支部

開催日 八月三十日(水)
 参加者 三十三名
 支部長 山田 哲夫
 副支部長 城 祐輔
 〃 本田 岩勝
 〃 松田 年市
 〃 川田 照重
 担当 牛島 貴裕

北松支部

開催日 八月二十九日(火)
 参加者 五十五名
 支部長 須藤 輝久
 副支部長 近藤 力也
 〃 坂中 善男
 〃 萩原 正清
 〃 田中 祐二
 担当 西田 光孝